

母校訪問で自衛隊をPR ～教え子の凛々しい制服姿に感激～



「4年ぶりの再会を喜ぶ」左から進路担当の吉野先生、
一般曹候生の營野2陸士、当時担任の為井先生

自衛隊神奈川地方協力本部上大岡募集案内所（所長 平原一陸尉）は、6月20日（木）一般曹候補生、營野^{えいのだいせ}2陸士の母校である横浜高等学校（横浜市）を訪問した。これは陸上自衛隊武山駐屯地第117教育大隊第13期一般曹候補生課程教育期間中の隊員に母校訪問を促し、学校との連携強化を図るとともに隊員募集に貢献しようとする実施されたもので、今回の母校訪問を快諾してくれた營野^{えいの}2陸士に同行してもらい、自衛隊をPRした。当日は上大岡募集案内所の細谷2空曹と共に学校訪問に臨んだ。營野2陸士は、「後輩にも是非、陸上自衛隊に入隊してほしいです」と進路担当教諭にすっかりPRし、成長した姿を見せてくれた。当時担任だった為井先生は「今年度定年を迎えるが、再度できて良かった」と、教え子の凛々しい制服姿に感激されたようだった。

また進路担当教諭からは「職種で実務を経験したら在校生の前で職業紹介、体験談の発表の場にぜひ来てください」等、次の来校を期待されるなど爽やかな母校訪問となった。

上大岡募集案内所は、「今後も現職隊員と連絡を取り合い、このような母校訪問等を有効に活用し、学校との連携深化を図り、募集成果に繋いでいきたい」としている。

航空自衛隊受験予定者が基地見学



F-4EJ戦闘機の操縦席に座り説明を受ける
受験予定者（百里基地）

自衛隊神奈川地方協力本部厚木募集案内所（所長 野田3海佐）は6月22日（土）、航空自衛隊中部航空方面隊第7航空団が実施した募集対象者4名に対する航空自衛隊百里基地の見学を支援した。

参加者は、団広報班による概要説明を受け、航空自衛隊の任務や装備品について理解を深めた後、基地内の見学を開始した。消防小隊の見学では、東日本大震災で福島原発への放水任務に従事した車両などによる放水訓練を見学し、航空基地での消防隊の役割や重要性を学んだ。

UH-60J救難ヘリコプターの展示説明では、操縦士が救難隊の任務について説明をし、参加者は重要かつ過酷な任務内容に驚きと尊敬の念を抱いていたようだった。

管制塔の見学では、茨城空港の航空管制を航空自衛隊の隊員が行っていると説明を受け、参加者は自衛隊の任務の広さに驚き、参加者の中には将来は航空自衛隊の管制官になりたいと夢を語ってくれた者もいた。

隊員食堂での体験喫食後、広大な基地の敷地を警備する警備犬の訓練展示が行われ、警備隊員の命令に従い行動する警備犬の姿に参加者からは拍手があがった。

最後は、F-4EJ戦闘機の展示説明があり、参加者は興味津々の様子で隊員に質問をするなど、見学は盛りだくさんの内容で参加者はとても満足していた。

参加した受験予定者は、「これまで、陸海空自衛隊のいずれかを受験しようと思ったことがありませんでしたが、今回の見学で航空自衛隊の任務や隊員の皆様の雰囲気を知ることができたので、航空自衛隊を受験しようと思います」と決意を表してくれた。

厚木募集案内所は、「実際に勤務している隊員や環境を知ってもらうことはとても重要だと考えている。今後も様々な機会を通じて自衛隊員の活躍する現場を多くの人に見て知ってもらうことで、一人でも多くの入隊予定者を獲得できるように募集活動に励んでいきたい」としている。